

## 第3回福岡統合医療研究会

<https://doi.org/10.15017/19307>

---

出版情報：福岡醫學雑誌. 96 (9), pp.351-352, 2005-09-25. 福岡医学会  
バージョン：  
権利関係：

---

---

## 集 会 報 告

---

---

### 第3回 福岡統合医療研究会

平成17年7月7日(木)午後6時30分より、第3回福岡統合医療研究会が、九州大学医学部百年講堂で開催されました。今回のテーマは高血圧で、西洋・東洋医学それぞれの立場からの高血圧のとりえ方と治療についての2席の講演が行なわれました。座長は九州大学大学院医学研究院老年医学分野の高柳涼一教授にお務め頂きました。以下に、講演者より提出された抄録を掲載致します。

当番世話人 江頭啓介

## || 特別講演 I ||

### ガイドラインに基づく降圧療法

国立病院機構 九州医療センター 高血圧内科 土橋卓也

日本高血圧学会による高血圧治療ガイドラインの改訂版が2004年に発行された(JSH 2004)。このガイドラインでは早朝高血圧や逆白衣高血圧(仮面高血圧)が心血管病のリスクとなることが明らかになったことを踏まえて、家庭血圧による高血圧の基準を135/85 mmHg以上と定義し、家庭血圧を指標に加えて24時間にわたる安定した降圧を心がけることを強調している。

高血圧に対する生活習慣の修正項目の中でも食塩制限は最も重要であるがJSH 2004では食塩制限を従来の7 g/日未満から6 g/日未満に変更した。これは日本人の食塩摂取量が近年低下傾向にあること、WHO/国際高血圧学会など海外のガイドラインが6 g/日未満を推奨していることを受けたものである。しかし、九州医療センターで行っている家庭蓄尿による食塩摂取量の評価によると本態性高血圧患者985名の中で食塩摂取量6 g/日未満を達成している者は約4%にすぎず、ガイドラインが提唱する減塩の遵守はきわめて困難な状況である。

近年の大規模臨床試験では降圧薬間のいわゆる「降圧を超えた臓器保護効果」が検討されているが、ガイドラインが提唱する降圧目標(若年・中年者は130/85 mmHg未満、糖尿病や慢性腎疾患合併高血圧者は130/80 mmHg未満、高齢者は140/90 mmHg未満)を達成するには併用療法が欠かせない。特に代謝性副作用への懸念から使用頻度が少ない利尿薬はACE阻害薬やアンジオテンシン受容体拮抗薬(ARB)との併用により、副作用の軽減と降圧効果の増強が期待でき、今後積極的使用が望まれる。

## || 特別講演 II ||

### 高血圧症と漢方～漢方の食養生

北陸大学薬学部東洋医薬学 劉 園英

漢方では身体の健康において、陰陽のバランスをいちばん重視してきました。疾病の発生は、からだの中での基本物質のバランスが崩れていたことが原因だとされています。

体は、活動エネルギー(陽気)と、血液・正常な水液・からだの成長発育の源となる物質である「精」(陰液と総称)といった、からだをつくる基本物質が助けあい、抑えあい、変化しあいながら生命活動を行っています。人の身体ではこれらの陽気と陰液という重要な物質がめぐって、それが過不足なく供給され、五臓六腑が協調的に働いているという運動の中で陰(陰液)と陽(陽気)が調和している状態を「健康」

と考えています。

漢方の考え方から本態性高血圧症は、年齢によって身体が変化していき陰陽のバランスが崩れている状態であるにとらえます。

漢方治療は、血圧値を直接下げることが目的としていません。あくまでも体のバランスが崩れている状態を元に戻すように治療をします。

漢方古来、食べ物は生命を維持し、病気に対する抵抗力を強くするものを含んでいて、治療効果もあるものが多いと言う「医食同源」「食養生」の考えがありました。

高血圧の治療は食養生が一番大切です。高血圧の食養生の第一は、腹八分目を心がけ体重をコントロールすることです。第二は、スムーズな排泄を心がけることです。

### —総括～パネルディスカッションをふまえて～

福岡統合医療研究会は西洋医学、東洋医学の両方を取り入れた医療を考えるヒントとする為に開催されている。今回のテーマは『高血圧』であった。

西洋医学の見地からみると、現在降圧薬としてはCa拮抗薬、ACE阻害薬、 $\alpha$ 遮断薬、 $\beta$ 遮断薬、利尿薬、アンジオテンシン受容体拮抗薬（ARB）がある。その中で日本ではCa拮抗薬、アンジオテンシン受容体拮抗薬（ARB）が多く使用されているのが現状である。しかし、今回特別講演I演者の土橋先生によれば、日本人は非常に食塩の摂取量が多いため日本高血圧ガイドラインを含め利尿薬の使用が見直されてきており、今後の高血圧治療の一役を担うことは間違いないだろう。

東洋医学の見地からの漢方治療は血圧を下げることを目的とするのではなく、あくまで体のバランスを戻すことが目的である。高血圧治療においても食養生を重要視しているが、この食養生を日本人に当てはめると減塩を考慮した食養生が必要であると考えられる。

いずれにしても東洋医学は西洋医学の補助を目的とし、西洋医学をサポートするものだと思われる。しかし東洋医学的治療が軽症高血圧治療のスタートになるのかも知れない。

代表世話人 林 純